

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

生徒が自信をもって社会に巣立つよう、本校の校訓である「堅忍不拔」「好学叡知」「和衷協同」の実践を通して、生涯にわたり、「能動的に学び続ける力」を育むとともに、高いコミュニケーション力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、リーダーシップを発揮して社会貢献できる生徒を育成する学校、地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。

確かな学力の育成と第一志望の進路実現  
豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成  
生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

### 2 中期的目標

**1 確かな学力の育成と第一志望の進路実現**

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善に取り組み、第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る。  
 ア 生徒による授業評価や教員相互の授業見学・研究授業等を充実させ、授業内容・指導法の改善を図るとともに組織的に授業力の向上に取り組む。  
 イ 基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容並びに指導法の改善に努める。全教科において基礎的事項の確実な定着を図る。  
 ウ 「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を養うため、アクティブラーニングを取り入れた授業を行うとともに、「総合的な探究」の授業を中心に、生徒の授業参加と活動量を増やし、学びを深める。  
 エ パソコン、タブレット、プロジェクター等のICTを活用した授業づくりなど、様々な授業の工夫を行い実践する。  
 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(H29 83%、H30 84%、R1 82%)を上昇させ、令和4年度には90%以上にする。  
 学校教育自己診断における生徒の授業満足度(H29 71%、H30 78%、R1 78%)を、令和4年度には80%以上にする。  
 「学力生活実態調査」における1,2年生のGTZのBへの確実な定着をめざすとともに、将来的にはAに引き上げる。

(2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。  
 ア 進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施する。  
 学校教育自己診断「学習支援の充実」令和4年度90%以上をめざす。(H29 80%、H30 84%、R1 84%)

(3) アクティブ専門コース(アクティブ音楽コース、アクティブスポーツコース)の充実。  
 ア 生徒の得意分野や興味・関心の深いエリアをさらに支援し、伸ばすことを目的としながら、自信や意欲を支える自尊感情や自己肯定感を高め、自己実現をめざす志を育み、学習面とは違った側面から学力の向上も図る。  
 イ 何事にも積極的に取り組む姿勢を育むとともに、リーダーシップ、忍耐力、集中力、協調性、社会性、奉仕の精神など、社会で必要とされる「生きる力」を育む。

(4) 3年間を見据えたキャリア教育計画等の充実により、生徒のキャリア意識の向上を図り、100%の第一志望の進路の実現をめざす。  
 ア 学年・教科・分掌が連携し、希望する進路に応じた支援の充実を図ることを通して、将来の夢や目標に向かって学習に取り組む姿勢を養い、第一志望の進路実現に向けて最後まであきらめず頑張りぬく生徒を育てる。  
 イ 進路指導部、学年が協力して、LHRを計画的に実施し、キャリア教育を推進することを通して、将来について自ら考え、夢の実現に向けて自ら行動する生徒を育てる。  
 第一志望の進路実現率を令和4年度85%以上にする。(H29 72%、H30 65%、R1 75%)  
 学校教育自己診断「1,2年時からの進路を意識した学習のスタート」令和4年度50%以上をめざす。(H29 36%、H30 40%、R1 43%)

(5) 自学自習の習慣の確立と学習と学校行事や部活動の両立。  
 ア 授業外校外学習指導の実施により、自律学習を支援し、学習意欲の向上、家庭学習の充実を図り、学力向上をめざす。  
 イ 生徒の学習に対する初期指導として、入学当初に学習オリエンテーションを実施する。  
 ウ 自習室や図書室の利用を促進し、学習と学校行事や部活動との両立を図る。  
 学校教育自己診断「家庭学習を十分行っている」令和4年度70%以上をめざす。(H29 59%、H30 61%、R1 64%)  
 部活動の加入率 90%をめざす。(H29 88%、H30 88%、R1 89%)  
 図書室の貸出冊数を令和4年度に1500冊以上にする。(H29 1068冊、H30 1274冊、R1 1438冊)  
 令和4年度に国公立大学の合格者数を10名、関関同立の合格者数を70名以上に伸ばす。(H29 国公立2名 関関同立51名、H30 国4名 関32名、R1 国3名、関23名)

**2 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成**

(1) HR活動、学校行事、生徒会活動、部活動等で生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶとともに集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。  
 ア 体育祭、文化祭、修学旅行、遠足、芸術鑑賞等の学校行事の充実を図る。  
 学校教育自己診断「行事が生徒中心に組織的・効率的に運用」令和4年度93%以上(H29 89%、H30 89%、R1 91%)

(2) 生徒の自主性、主体性を重視した生徒会、CM会議(部活動のキャプテン、マネージャー会議)、図書委員会等の活動を充実させ、生徒の可能性を最大限に伸ばす教育を実践し、生徒の自己有用感を醸成する。  
 ア 生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動、あいさつ運動等の充実を図る。  
 学校教育自己診断「生徒会活動が活発」令和4年度90%以上(H29 85%、H30 89%、R1 84%)

(3) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに、挨拶や通学等のマナーを向上させる。  
 ア 基本的生活習慣の確立を図るため、欠席、遅刻についての指導を強化するとともに挨拶する態度を確実に身に付けさせる。  
 イ 生徒の安全確保と地域に信頼される学校づくりの一環として、自転車通学を中心に通学マナーの向上に取り組む。  
 学校教育自己診断「基本的生活習慣の確立に力を入れている」令和4年度90%以上(H29 89%、H30 87%、R1 89%)

(4) 海外からの生徒の受入れ、海外への生徒派遣等、グローバル人材の育成に向けた取組みを、PT「国際交流委員会」を中心に実施する。

(5) 保護者との連携を図りながら、安全で安心な学校づくりを推進する。特に生徒理解、教育相談の取組みをさらに組織的に発展させるとともに、個々の生徒への支援体制を一層充実させる。  
 ア 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図るため、家庭連携、中高連携をさらに進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担任会、保健部会、教育相談委員会、就学支援委員会などで組織的に検討し、指導の充実を図る。  
 学校教育自己診断「家庭とのきめ細かい意思疎通と相談について」令和4年度80%以上(H29 83%、H30 74%、R1 83%)

(6) 開かれた学校づくりにより保護者や同窓会、地域との連携を密にし、さらなる生徒の育成を図る。  
 ア 地域イベント等において生徒の出番を多く設定することにより、地域コミュニティの中での「育ち」を支援する。  
 イ 地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」を開催する。

**3 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上**

(1) 大規模自然災害に備えた危機管理体制の確立及び校内組織の見直しを行う。必要に応じてプロジェクトチーム等の新設及び改廃を行い、円滑な組織運営を行う。また、本校のめざす学校像の実現に向けて一丸となって課題に取り組む教職員集団づくりをさらに推進する。

(2) 〆・ザ・ジョブ・トレーニング(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行うとともに、香里会(新任を中心とした研修チーム)を活用した経験の少ない教員等の育成を図る。

(3) 広報活動の充実を図り、本校教育の素晴らしさを積極的にアピールする。  
 ア 中学校や地域住民に対する広報活動をさらに充実させる。  
 イ ホームページ、香里丘メールサービス配信等で情報提供に努める。

**4 校務の効率化と働き方改革の推進**

(1) ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、教職員のICT活用能力を高める。

(2) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」「府立学校における働き方改革に係る取組について」等を踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年 月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|----------------------------|--------------|
|                            |              |

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標   | 今年度の重点目標   | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標   | 自己評価 |
|---|--|---|--|------|
| 1<br>確かな学力の育成と第一志望の進路実現   | (1) 主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善に取り組み、第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る<br>ア、公開授業、授業アンケート、教員研修等を活用した授業改善の推進と授業力の向上  | (1) アウ・各教科で研究授業、研究協議等を活発に実施し、授業の質の向上につなげる。<br>・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ、授業アンケート結果を各教員及び教科で効果的に活用し、授業改善を推進する。<br>・観点別評価を推進し、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて実践研究を行う。また、大学入試制度改革や学習指導要領の改訂に対応するため、教員研修を充実し、授業改善、授業力向上の取組みの活性化を図る。さらに、新制度入試への対応策の検討と同時に、教育課程についても検討を続ける。 | (1) アウ・各教科で「アクティブラーニング」を取り入れた研究授業・研究協議を年間3回以上実施できたか。<br>・学校教育自己診断における「授業へ集中して取り組む」率90%以上(R1:87%)<br>・「アクティブラーニング」や大学入試制度改革、学習指導要領の改訂等授業改善、授業力向上に関する研修が実施できたか。  |      |
|   | イ、基礎学力の定着  | イ・全教科において基礎的事項の確実な定着を図るために、生徒の基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容や指導方法の改善、検討を行う。また、「学力生活実態調査」をより有効に活用し、国・数・英の基礎学力の定着を図る。  | イ・1年、2年の第2回「学力生活実態調査」のGTZ「B」を維持(R1:1年B3、2年B3)  |      |
|   | ウ、アクティブラーニングを取り入れた授業の推進と「探究活動」の調査研究<br>エ、ICTを活用した授業づくりの推進  | ウ・「アクティブラーニング」を取り入れた研究授業を実施し、さらに教員研修等で研究を深める。<br>・「探究活動」をさらに活発にするため、調査研究を進める。<br>エ・ICT機器や視聴覚機器を積極的に活用した授業づくりを組織的に学校全体で推進し、生徒の授業への集中度を高め、より効果的な授業を行う。「学校経営推進費」の獲得をめざすなど、設備等の充実に努める。  | ウ・「探究」活動の生徒アンケート満足度75%以上<br><br>エ・授業でICTを活用した教員65%以上を維持(R1:65%)<br>・学校教育自己診断における「授業の工夫」75%以上を維持(R1:75%)<br>アウエ・「興味関心、知識技能」に係る第2回授業アンケート満足度85%以上(R1:82%)<br>・学校教育自己診断 授業力向上関連項目平均75%以上を維持(R1:78%)<br>アウ・国立大学の合格者を5名以上(R1:3名) 関関同立の合格者数を10%増(R1:23名) 本校の教育システム項目の学校教育自己診断肯定率85%以上を維持(R1:85%) |      |
|   | (2)一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する<br>ア、個に応じた学習指導の実践   | (2) ア・進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施し、学力の高い生徒から学習到達度の低い生徒に対し、学び続ける生徒の育成を図りながら、学力の定着をめざす。模擬試験や各種検定試験に向けた指導を充実し、受験を促進する。  | (2) ア・学校教育自己診断 講習・補習65%以上を維持(R1:69%)<br>「学習支援の充実」85%以上(R1:84%)   |      |
|   | (3)アクティブ専門コースの充実<br>ア、専門コースの授業内容のさらなる充実  | (3) ア・アクティブ専門コースがより生徒の期待に応えるものとなるように、授業内容等のさらなる充実を図る。高大連携等を推進し、教育活動の充実、深化を図る。また、そのための施設、設備の充実を図る。   | (3) ア・アクティブ専門コースの次年度選択人数60名以上を維持(R1:77名)<br>アクティブ専門コースの授業内容充実の取り組み状況。  |      |
| (4)生徒のキャリア意識の向上を図る。<br>ア、系統的なキャリア教育の推進<br>イ、適切な進路情報の提供            | (4) ア・「学力生活実態調査」の活用、大学見学会の実施等三年間のキャリア教育計画と進路指導体制をさらに充実させ、キャリア意識の向上を図る。また、eポートフォリオ導入を検討する。<br>イ・進路コーナーの充実、HPへ進路情報のアップ、情報提供機会の増加など進路の情報提供の充実を図る。   | (4) ア・学校教育自己診断で進路に関わる項目の肯定率の平均80%以上を維持(R1:82%)<br>イ・学校教育自己診断で進路情報提供項目肯定80%以上(R1:77%) 「進路についての家庭への連絡や適切な情報提供」の肯定回答を85%以上(R1:81%)<br>アイ・生徒アンケートにより第一志望の進路実現70%以上を維持(R1:75%)<br>・学校教育自己診断「1,2年時からの進路を意識した学習のスタート」40%以上を維持(R1:42%)  |  |      |
| (5)自学自習の習慣の確立と学習と学校行事や部活動の両立。<br>ア、自学自習の習慣の確立<br>イ、学習と学校行事や部活動の両立 | (5) ア・Web予備校の活用を推進し、自学自習の取組みの充実を図る。また、授業外校内学習指導をさらに活発に行い、自立学習の充実を図る。<br>・入学当初に実施する学習オリエンテーションをさらに充実させる。また、自学自習の習慣化に向けた新たな取組みについて検討する。<br>・学校図書室のさらなる活用などを通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。<br>イ・部活動内での学習支援の充実。行事や部活動の終了時刻の徹底により、学習との切り替えを図る。 | (5) ア・参加者70名以上を維持(R1:75名)<br>・アンケートで肯定平均95%以上を維持(R1:99%)<br>・家庭学習の充実。学校教育自己診断65%以上。(R1:64%)<br>・図書室の貸出冊数・入館者数増(R1:6254人 1438冊)<br>イ・学習支援の取り組み状況と終了時刻の厳守。  |  |      |

|                                   |   |  |   |  |
|-----------------------------------|---|--|---|--|
| <p>2<br/>豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成</p> | <p>(1)生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶ<br/>ア、生徒の自主性を育むHRの充実<br/>イ、学校行事の充実<br/>ウ、部活動の奨励</p> <p>(2)生徒会活動の充実<br/>ア、自主性、主体性を重視した生徒会活動の奨励</p> <p>(3)規律ある学校生活<br/>ア、通学マナーの向上<br/>イ、遅刻指導の強化と挨拶の奨励<br/>ウ、校内美化の推進</p> <p>(4)グローバル人材の育成<br/>ア、海外生徒との交流</p> <p>(5)安全で安心な学校づくりの推進<br/>ア、PTA 活動の推進と家庭との協力体制の充実<br/>イ、個々の生徒への支援体制の充実<br/>ウ、教育相談の充実</p> <p>(6)開かれた学校づくり<br/>ア、地域の学校や団体との連携・交流</p> | <p>(1)<br/>ア・生徒の自主性を尊重し、「香里を考えるHR」の充実を図り、学校生活改善の提言をさせ、帰属意識を高める。<br/>イ・体育祭・文化祭の生徒の達成感をさらに向上する。<br/>ウ・新入生に対し、部活動入部を強く勧める。</p> <p>(2)<br/>ア・生徒の自主性、主体性を重視した生徒会活動を奨励し、中学生対象の授業・部活動体験での発表、新入生歓迎行事の充実、CM 会議、クラブ総会の充実、保健委員会、図書委員会の活動の活性化など、生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動の充実を図る。</p> <p>(3)<br/>ア・通学マナーの指導及び交通安全指導をさらに強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。<br/>イ・基本的な生活習慣の定着に努め、遅刻者数の減少を図る。日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気を醸成する。<br/>ウ・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。</p> <p>(4)<br/>ア・海外の生徒等との交流、海外への生徒派遣を計画的に行うために「国際交流委員会」を新設する。</p> <p>(5)<br/>ア・PTA と共催で、人権研修や登校指導等を実施し、保護者と連携して安全で安心な学校づくりを推進する。登校指導については、地域との連携を模索する。<br/>イ・様々な事情により、学校生活を送るにあたって困難を伴う生徒について、就学支援委員会で生徒支援カード等により収集した情報を共有し、個別の支援計画など、保護者と連携しながら作成、充実した指導をめざす。<br/>ウ・教育相談体制等をさらに充実し、スクールカウンセラーと学年との連携を深める。生徒への声掛けをより充実させる。</p> <p>(6)<br/>ア・地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」を開催する。<br/>・地域の学校や団体との連携・交流をさらに充実させる。</p> | <p>(1)<br/>ア・生徒からの学校生活改善等提言内容によって評価する。<br/>イ・満足度 80%以上 (R1:78%)<br/>ウ・部活動加入率 1 年生 90%以上。(R1:89%)</p> <p>(2)<br/>ア・CM 会議年間 20 回以上。ｸﾗﾌﾞ 総会の年 3 回の継続と内容の充実 (R1:CM 会議 19 回、総会 3 回)<br/>・図書委員会による図書館活動状況。<br/>・学校教育自己診断「生徒会活動が活発」肯定率 85%以上 (R1:84%)</p> <p>(3)<br/>ア・毎日の登校および下校時の自転車指導の実施。<br/>イ・遅刻者数前年度比減少 (R1:636 名)<br/>・挨拶運動の実施と日常の教職員からの挨拶を含む声かけを継続的に実施できたか。<br/>ウ・校内美化についての学校教育自己診断の肯定率 80%以上 (R1:79%)</p> <p>(4)<br/>ア・海外生徒等との交流 2 回以上 (R1: 1 回)<br/>・国際交流委員会が中心となり、生徒海外派遣を実施する。参加者満足度 80%以上</p> <p>(5)<br/>ア・PTA による登校指導 5 回以上を維持。(R1: 6 回)<br/>・人権を学ぶ機会 学校教育自己診断 保護者 85%以上 (R1:83%)<br/>イ・委員会を年 3 回以上開催し、全体で情報を共有し生徒の支援をする (R1: 2 回)<br/>ウ・学校教育自己診断(悩み相談)60%以上を維持 (R1:66%)</p> <p>(6)<br/>ア・「香里カップ」「香里フェス」を合わせて 5 部以上を維持 (R1: 5 部)<br/>・連携・交流の状況。</p> |  |
| <p>3<br/>生徒の力をしっかりと伸ばす学校力の向上</p>  | <p>(1) 校内組織の見直しと体制づくり<br/>ア、危機管理対応等の充実。<br/>イ、円滑な組織運営と一丸となって課題に取り組む教職員集団づくり</p> <p>(2)経験の少ない教員等の育成</p> <p>(3)広報活動の充実。<br/>ア、効果的で適切な情報発信</p>   | <p>(1)<br/>ア・地震・火災対応・AED の使用について教職員・生徒への新たな周知方法を研究する。<br/>・防災について、地域との連携を図る。<br/>イ・プロジェクト委員会が中心となり、必要に応じてPT や委員会を新設及び改廃し、教職員の意見を大切にしながら、円滑な組織運営を行う。その際、原則、有志参加者も募るなど教職員の参画意識の向上を図る。</p> <p>(2)<br/>ア・新任から 2 年目までの教員対象の勉強会「香里会」を実施する。自信を持って授業や生徒指導等に当たることができるよう進める。研究授業を実施するとともに、危機管理を含めた保護者対応、授業、部活動指導等について先輩教員の指導に学ぶ。</p> <p>(3)<br/>ア・中学生学校見学会、HP の更新、中学校訪問など文化広報部が中心となって中学校や地域住民に対する効果的で適切な広報活動を充実させる。<br/>・メール配信登録者に年間通じて情報提供に努め、学校の情報が保護者によりよく伝わるようにすることによって、家庭との協力体制のさらなる充実を図る。</p>  | <p>(1)<br/>ア・防災訓練 2 回実施(火災・地震)。生徒、教職員対象 AED 講習会の充実。学校教育自己診断 80%以上を維持 (R1:84%)<br/>・災害時の安否確認方法の研究状況。<br/>・防災において地域との連携を深める。<br/>イ・PT や委員会の新設改廃状況。円滑な組織運営。学校教育自己診断(学校運営)平均 70%以上 (R1:64%)</p> <p>(2)<br/>ア・香里会を年間 10 回以上実施。研究授業の実施状況(初任者:年 2 回以上、2 年目:年 1 回以上)、アンケート肯定平均 85%以上。(R1:84%)</p> <p>(3)<br/>ア・校内学校見学会年間 3 回実施、外部説明会 7 回参加 (R1: 3 回実施、7 回参加)<br/>・メール配信登録者 90%以上(R1:登録者 88%)</p>  |  |
| <p>4<br/>働き方改革の推進</p>             | <p>(1)ICT を活用した校務の効率化</p> <p>(2)労働安全衛生管理体制の充実</p>   | <p>(1)<br/>・情報処理委員会を中心に校務処理システム等 ICT の活用をさらに推進し、校務の効率化を図る。ICT を活用して教材等の共有化や成績処理など、日常業務の軽減を図り、教材研究をする時間を確保する。</p> <p>(2)<br/>・「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る<br/>・学校保健委員会の活性化を図る。</p>   | <p>(1)<br/>・全教科で ICT を活用した教材共有システムを開発し、その活用状況。成績処理の ICT 化等、業務軽減の状況。</p> <p>(2)<br/>・職員の平均時間外勤務時間前年度より削減。(R1:33.2 時間)<br/>・生徒保健委員会による研究発表。(R1: 1 回)</p>  |  |